



中村ミナトステップス初個展である。1947年東京に生まれ、パブリックコレクションが幾つもの美術館に収められている実力者である。しかし画廊での展示ではそのような実績は関係がなく、いま、ここに作品が立ち現れていなければ素通りされてしまう。今回の中村の作品は実力者に相応しく、見る者を足止めする。

中村は今回、画廊内に巨大な彫刻作品一点、画廊の入り口と事務所に小品5点を置いた。いずれもタイトルは《FOLD》のヴァリエーションであり、材質はアルミニウムのみを用いている。画廊の入り口に平面《Untitled》(紙にミクストメディア)を展示した。

平面と立体、小品と大作という対比ではなく、全ての作品が等価なのである。それほどまでに、画廊内に展示された大型の作品は重量を感じさせない。作品の一部が画廊の床に突き刺さっているように錯覚するし、それよりも作品が羽根に見え、ステップスギャラリーの5階からバルコニーを経て、遙か彼方上空へ飛翔するイメージが喚起される。批評の中村英樹は「中村の彫刻はその存在そのものよりも、周りの空間を「切り裂き」ながら、空間の豊かさを体感させてくれるのである」と評した。英樹の言う「空間」は形而上にある。人間は形而上の世界で生きている。形而下こそが空想の世界であることを、中村の作品が教えてくれる。

